

## 暴徒

<対象を容易にすり替えることができる不思議さ>

ガラスに映る空に目をやることも知らぬ  
渴きを癒す水を求めて駆け込む先には  
麻薬のように舌を痺れさせる液体があるだけ

もっと放埒を許せ  
遊蕩の苦さを嘗め尽くせ  
叫び、喚くがいい

おお、自由という幻想が  
現実の感覚とは別の次元で笑いかけている  
じわじわと引き裂かれてゆく、自己

「もっと用意する必要がある  
もっと、もっと、もっと  
もっと自由に浪費したい。  
俺たちは安く買い叩かれている  
もっと、もっと、もっと  
もっと高く買え。」

自由の重さを背負うがいい  
骨格が成長する痛みを引き受けるがいい  
それらを「学ぶ」ことは不可能なのだから

「もっと用意する必要がある  
もっと、もっと、もっと  
もっと自由に浪費したい。  
お前達は吸い続けてきたではないか  
世界から、広い海の向こうを通じて  
ただ渡ってくる“お慈悲”を。」

既に世界は浪費され尽くしてしまった  
そのことをお前達は知らない  
お前達に残されているのは、ただ“自己搾取”のみ

破壊し、その瓦礫を拾い集めるがいい

そこから見出すのだ  
お前達の渴きを癒す、“自己”という山河を

世界は今後、お前達の“<sup>コスト</sup>価値”を引き上げ

その利用を避けることだろう  
そこから先は、お前達自身で歩くがいい

(2005.4.12)